

報道関係者各位

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020

MUSEUM OF TOGETHER CIRCUS

ミュージアム・オブ・トゥギャザー
サーカス



**2018年
9月13日(木)
-17日(月祝)**

11:00~20:00 / 会期中無休 / 入場料無料 渋谷ヒカリエ 8/COURT (〒150-8510 東京都渋谷区渋谷2-21-1 8階)
2018.9.13 (Thu)-17 (Mon) / Opening Hour: 11:00-20:00 / Open every day / Admission Free
Venue: Shibuya Hikarie 8/COURT (8F Shibuya 2-21-1, Shibuya-ku, Tokyo 150-8510)

<https://www.diversity-in-the-arts.jp/exhibition2020/moto-circus>

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
SIW

展覧会に関するお問い合わせ: 一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 今野優紀、高橋美苗
TEL: 03-5577-6627 FAX: 03-5577-6628 MAIL: moto@diversity-in-the-arts.jp

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020
ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス
アートへの新しい入り口が開かれる！5日限りのサーカス

■開催概要

- 会期： 2018年9月13日（木） - 17日（月/祝）計5日間/会期中無休
時間： 11:00～20:00
会場： 渋谷ヒカリエ 8/COURT（〒150-8510 東京都渋谷区渋谷 2-21-1 8階）
<http://www.hikarie8.com/home.shtml>
アクセス： 東急東横線・田園都市線、東京メトロ半蔵門線・副都心線「渋谷駅」
15番出口直結
JR線、東京メトロ銀座線、京王井の頭線「渋谷駅」と2F連絡通路で直結
入場料： 無料
主催： 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS(ニッポンザイダンドイバーシティ・イン・ジ・アーツ)
特別協力： 渋谷区
後援： 一般社団法人渋谷未来デザイン、一般財団法人渋谷区観光協会
監修： NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

■展示作家

川内理香子、小松和子、清水千秋、ピーター・マクドナルド、古谷秀男、竜之介、渡邊義紘



2.清水千秋「三代目 J Soul Brothers」
やまなみ工房所蔵
撮影：木奥恵三



3.渡邊義紘「折り葉の動物たち」
撮影：木奥恵三

■企画関係者

キュレーション：ロジャー・マクドナルド、塩見有子/[AIT/エイト]
会場デザイン：長岡 勉/POINT
施工・デザイン協力：アラキ+ササキアーキテクト
展覧会グラフィック：岡本 健/岡本健デザイン事務所
ラーニング協力：NPO法人 エイブル・アート・ジャパン

■協力：

社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房、WAITINGROOM、一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会、アトリエ・エー、社会福祉法人大和会 大和高原太陽の家(順不同)

■日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス 公式ウェブサイト

(URL:<https://www.diversity-in-the-arts.jp/exhibition2020/moto-circus>)

制作:萩原俊矢

協力:Bmaps プロジェクト(日本財団 CANPAN プロジェクト/株式会社ミライロ)

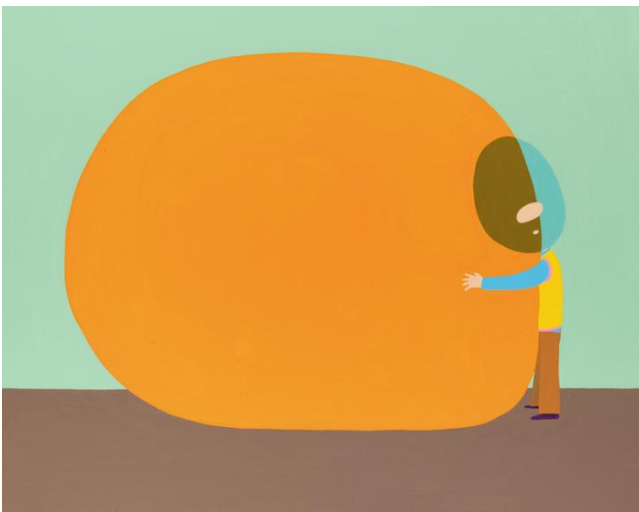
バリアフリー共有アプリ「Bmaps(ビーマップ)」と連携しアクセス情報の提供を行います。会場から出た後も楽しめるよう会場周辺の飲食店などの情報も公開します。

■関連プログラム

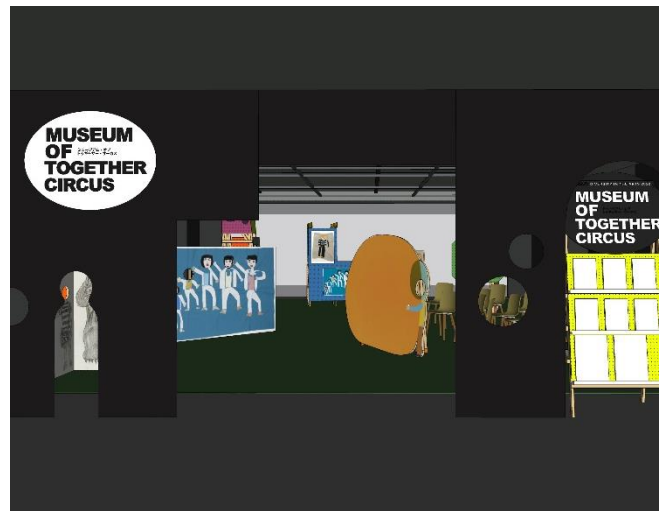
トークセッション『DIVE DIVERSITY SESSION(ダイブ・ダイバーシティ・セッション)』では、テーマを“本質”と掲げ、様々な分野の有識者を招き、多様性社会を探求するトークセッションを行います。(※手話通訳/文字通訳あり)

そのほか作家による制作パフォーマンスやイベントなど、さまざまなプログラムを予定しております。最新情報は日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス公式ウェブサイトをご覧ください。

■本展のみどころ



4. Peter McDonald 「Orange Egghug」



5. 会場デザインイメージ、作品を顔はめパネルとして展示
(会場デザイン:長岡 勉/POINT、施工・デザイン協力:アラキ+ササキアーキテツ)

アートの中に入ろう！写真を撮って楽しめる参加型のアート展！

会場構成のコンセプトは「サーカス」。カラフルな会場デザインや来場者が展示の一部として参加できる様々なスタイルのユニークな顔はめパネルの展示を予定。子どもから大人まで多くの方々にお楽しみいただける、思わず中に入りたくなるようなワクワク・ドキドキ楽しい空間が広がります。遊び心のあるにぎやかな会場で作品を鑑賞するだけでなく、この会場でしか体感できない思い出も残していただけます。

ハッシュタグを付けた写真を投稿してサーカスを盛り上げよう！

#日本財団 DA2020 #MOTO サーカス



2017年度ミュージアム・オブ・トゥギャザー 会場風景
撮影：木奥恵三

2017年度 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展「ミュージアム・オブ・トゥギャザー」は、2017年10月、東京のスパイラルガーデンにて、当プロジェクトとして開催した初の企画展です。

障害のある作家や現代美術家、また香取慎吾さんを含む23組の作家による作品、アーカイブ資料や模型など約500点を展示し、19日間の会期中に約4万人が来場しました。多くの鑑賞者にひらかれた展覧会として、誰でも楽しく、居心地よく過ごせる環境を目指した本展では、キュレーター、建築家、デザイナー、編集者、美術館職員、障害のある方、そして福祉関係者など、領域を超えて様々な立場の人々により企画チームを構成し、コミュニケーションを重ね双方向に学び合いながら、準備を行いました。会場では、さまざまな方のニーズに応じて展覧会やサービスの案内をする総合受付「ウェルカム・ポイント」や、鑑賞中に休憩が必要となる方のために静かに過ごせる部屋「クワイエット・ルーム」、音声を通じて作品を知ることのできる「オーディオ・ディスクリプション」や会場周辺のバリアフリー情報を届けるアプリ「Bmaps(ビーマップ)」を用意。アクセシビリティを配慮した会場づくりにも力を入れ、スロープを設けるなど、会場の既存の空間を使いつつ、アクセシブルな展示を実現させ、さまざまな視点や感覚で展覧会を楽しめる工夫をこらしました。

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS とは



誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指し、日本財団は障害者に関わる事業に多角的に取り組んでいます。そのひとつである「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダンドアイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」は、アートを通して多様性の意義と価値を広く伝え、越境を導くため、多くの人々が参加者となり、新たな担い手や企てが生まれるよう、東京オリンピック、パラリンピックが開催される2020年に続く未来に向けて展開するプロジェクトです。

■広報用画像

画像 No.1~5 を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は使用条件をお読みの上、下記までお問い合わせください。

MAIL: moto@diversity-in-the-arts.jp

＜使用条件＞

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。別途資料をお送りします。

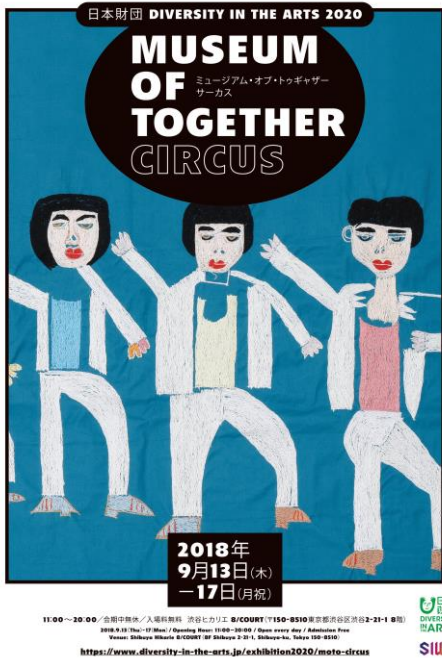
※作品画像のトリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにはご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙をお送り頂きますようお願いいたします。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録の DVD・CD などの送付をお願いいたします。

以上、ご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

1



展覧会メインビジュアル
(展覧会グラフィック:岡本 健/岡本健デザイン事務所)

2



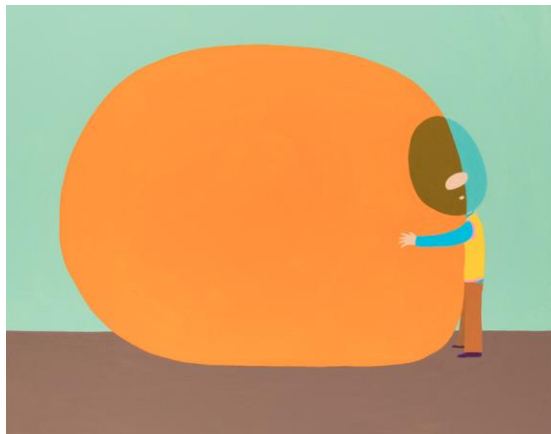
清水千秋「三代目 J Soul Brothers」
やまなみ工房所蔵
撮影:木奥恵三

3



渡邊義紘「折り葉の動物たち」
撮影:木奥恵三

4



Peter McDonald「Orange Egghug」

5



会場デザインイメージ、作品を顔はめパネルとして展示
(会場デザイン:長岡 勉/POINT、施工・デザイン協力:アラキ+ササキアーキテクツ)